



報告書

No. 02-01545-3

依頼者 住 所：堺市中区大野芝町 94
会社名（氏名）：宝栄産業株式会社 様

試料名（依頼者の申出による呼称）
オプティマスインテリアペイント

1 点

本所に提出された試料につき試験した結果を下記のとおり報告いたします。
平成 24 年 8 月 7 日

地方独立行政法人

大阪府立産業技術総合研究所理事長



試験項目：揮発性有機化合物の定量分析、他の化学分析：一般的なもの・定量

試験方法：ガスクロマトグラフ質量分析装置による分析操作以外は、20°C-65%RH の恒温恒湿室内にて行った。

試料調整：20°C-65%RH の恒温恒湿室内で、試料表面から高さ 10cm に設置した紫外線ランプ（松下電器産業製ブラックライト FL-15BL-B 15W）により、試料表面に紫外線（約 1mW/cm²、浜松ホトニクス製 C9536-01/H9958-01 により測定）を 5 日間照射した。

臭気ガス（初発濃度）：イソ吉草酸（約 38ppm）

1 ロスリーブ付き 5L アナリティックバリアバッグの片隅をカットし、調整後の試料 1 枚（10cm x 10cm）をアナリティックバリアバッグに入れた後、カット部分を塞いだ。次に、真空ポンプで一度脱気してから窒素ガス 0.5L を積算流量計付きポンプにより注入した。臭気ガス溶液（イソ吉草酸の 10g/L エタノール溶液）10μL をマイクロシリンジで、試料に付着しないようアナリティックバリアバッグ内に注入した後、密閉し、静置した。蛍光灯により試料表面に可視光（約 1,000 ルクス、日置電機製 LUX HiTESTER3423 により測定）を照射し、2 時間後、1 日後のアナリティックバリアバッグ内に含まれるイソ吉草酸を Tenax TA カートリッジにより捕集し、ガスクロマトグラフ質量分析装置により分析を行った。

ガスクロマトグラフ質量分析装置(GC/MS)：日本電子社製 AM SUN200T

加熱脱着・クライオトラップ装置：Scientific Instrument Services Inc. 製

Short Pass Thermal Desorption Model TD-4

キャピラリーカラム：SUPELCO 社製 SBP-1 (60m x 0.25mm x 1μm)

カラム槽温度条件：50°C・1 分保持→50°C⇒200°C（昇温速度：10°C/min）、

200°C⇒280°C（昇温速度：25°C/min）→280°C・9 分保持

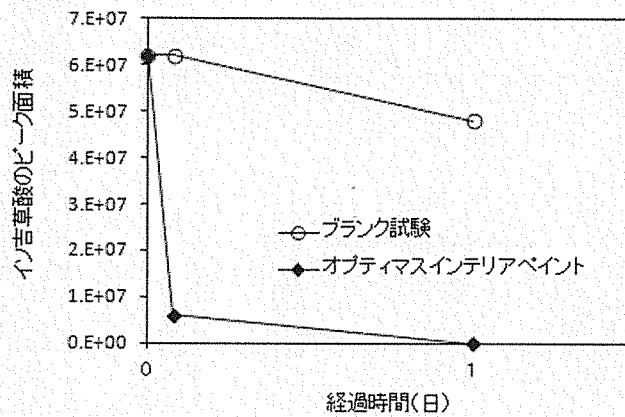
スプリット比：1/100

2 枚の内 1 枚目

試験結果：試験は1回行った。

トータルイオンクロマトグラムにおけるイソ吉草酸のピーク面積

	2時間後のピーク面積	1日後のピーク面積
ブランク試験	6.2×10^7	4.8×10^7
オプティマスインテリアペイント	6.0×10^6	0 (ピーク検出できず)



減少率(%) = [(ブランク試験のピーク面積 - 試料のピーク面積) / ブランク試験のピーク面積] x 100

2時間後の減少率	1日後の減少率
90%	100%

(このページ以下余白)